

極楽寺だより



2017(平成29)年4月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

春の永代経法座のご案内

慈しみの光あふれる春となりました。

生命の息吹を感じる時、お浄土の人となられた方々

が懐かしくしのばれます。

如来さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わい、

仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次のとおり

おつとめします。お誘いあわせ、お参り下さい。

四月二十六日(水)

昼一時半 夜七時半

四月二十七日(木)

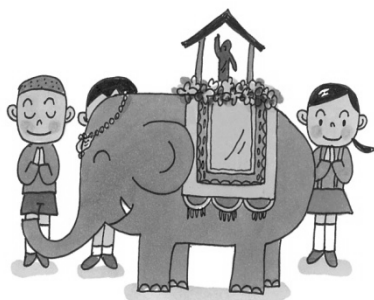
昼一時半

講師 豊北町滝部 安養寺住職

中山知見師

花まつり

※ 甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。

極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。

ご自由に甘茶をかけ、お飲み下さい。



秘伝 秘伝 秘伝
秘伝 秘伝 秘伝
秘伝 秘伝 秘伝

オシエノ カケラ

声に出して、お念仏称えましょう
キャンペーン 第二弾

「称えるだけで」



今年から、「声に出してお念仏称えましょう
キャンペーン」を始めました。浄土真宗では、

声に出してお念仏を称えることを、とても大切にします。最初
は、意味がわからなくても良いのです。とにかく声に出して、
称えて下さい。本人の自覚うんぬん別にして、実はそれが、「仏
さまのお仕事をすることになるのです。」

二〇〇四年にノーベル平和賞を受賞された、
ケニアのマータイさんという方が、「MOTTAINAI
（もったいない）」という言葉が世界中に
広めて下さいました。日本には、こんなに素
晴らしい心と、それを表す言葉があるのだと。
何年か前には、きゃりーぱみゅぱみゅという
歌手が、「もったいないから、もったいないから」と歌って、



いました。ところが、物にあふれた現代社会に生きる私たちは、
この「もったいない」という言葉を忘れがちです。

でももし、「これ、要らないから」と捨てようとした横を、小
さな子どもが「もったいないから、もったいないから」ときゃ
りーぱみゅぱみゅの歌をうたいながら通ったら、どうでしょう。
捨てることへのためらいや、罪悪感が起こりませんか？

子どもは、意味もわからずただ歌っているだけです。しかし、
わからないまま歌ったのだとしても、「もったいない」の心を知
っている人が聞いた時に、その心が届き、その人を動かすとい
うことがあるのです。意味がわからないままに言った一言が、
周りの人たちに、気づきを与え、目覚めを与えていくことが。

南無阿弥陀仏のお念仏も同様です。意味がわからないまま称
えたとしても、そのお念仏を聞くことで、大切な心を思い出し、
気づき、目覚めさせられ、導かれる人が出てくる。これって、

凄いことだと思いませんか。人を目覚めさせ、導くなんて、なかなかできることではありませんよ。でも、お念仏を称えるだけで、それが実現する。これを、「仏さまのお仕事」というのです。それだけ、お念仏に込められたはたらきが凄いということなのですが・・・。



だからこそ、口に出してお念仏を称えることが大切なのです。そして私自身も、私が称えたお念仏を聞きながら、そこに込められた阿弥陀様の心と出遇い、味わうことが大切なのです。

浄土真宗は、お念仏を称えることがすべての始まりであり、お念仏に込められた心を聞くことで成就する教えです。すぐに大きな声ではできないかもしれませんが、少しずつでも声に出してお念仏申しましょう！ぜひ、このキャンペーンにご協力をお願いします。■



南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

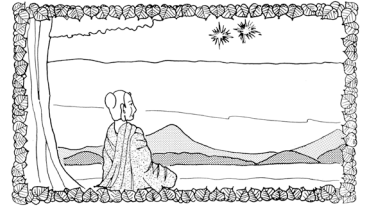


仏事、葬儀、納骨・・・、わからないこと、困ったことがあれば、極楽寺にご相談下さい。どうぞ、ご遠慮なく 0837 (43) 0625



極楽寺だよりを送りませんか

都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺から、直接郵送します。



極楽寺揭示伝道 けいじてんどう

人の欠点

よく見えること自体

自分の欠点

極楽寺揭示伝道



4月の言葉

「日本の雑誌は、とにかく意地が悪いと思う。読んでいると、日本って、政治もダメ、経済もダメ、メディアもダメで、社会は隅から隅まで厭な奴ばかりバカばかりで、いいことなんか何もないんだよな・・・ということがだんだん身にしみてくるわけだけど、そんなことをしていったい誰が得をするのか。だれが喜ぶの、と思う。」

だから、雑誌の部数がどんどん減ってくるのは当然だと思う。読んでて気が滅入るんだもの。」

（『内田樹の生存戦略』 内田樹著）

思想家で武道家の内田樹先生が、「日本の雑誌・週刊誌の売り上げが落ちる一方ですが、なぜでしょうか？」という質問に対し、「批評性」と「攻撃性」をとり間違えたからだ」と指摘しておられます。

内田先生の言われる「批評性」のある書き物とは、読んでいるとこちらの頭が揺さぶられて、目の前の霧が晴れて、頭の風の通しがよくなって、なんだか生きる元気が湧いてくる・・・、読んでいる人に生きる力を与えるようなものだと言われます。

ところがいつしか、相手を論破し、黙らせ、ねじ伏せ「攻撃」することが「批評性」だと勘違いされるようになってしまった。相手を馬鹿にし、せせら笑い、弱みにつけ込んで徹底的にいじめる。周りの生きる力を削いでいく。そんな記事ばかりでは、読んでいてしんどくなってきます。▼

確かに、「人を馬鹿にする」「見下す」「貶める」「やる気を削ぐ」言葉が、今ほど飛び交っている時代はなかったのではないのでしょうか。ワイドショーでは、タレントを持ち上げては、貶めて、攻撃して、爽快感を得るといふパターンが、いつまでも繰り返されています。いや、貶めるために、持ち上げていくのかもしれない。確かに、それはとても簡単に爽快感を得ることができますから。そしてそれは、インターネットの世界で増幅され、私たちの日常にも溢れ出しています。▼



そんなことを繰り返しても、ちっとも人生は豊かにはならないでしょう。十七世紀フランスのモラリスト、ラ・ブリュイエールが、

「あら探しをして悦に入っていると、ささやかなものに感動する喜びは失われてしまう」と言ったと聞きましたが、まさにその通りだと思います。それは生きるということにおいて、とても大きな欠陥・欠点ではないでしょうか。

私にとって仏法とは、頭が揺さぶられ、目の前の霧が晴れ、頭の中の風通しがよくなって、なんだか生きる元気が湧いてくる、そんな教えなのです。「あら探しをして悦に入っている」私の愚かさや欠点に目覚めさせ、本当に求めるべきものを、指し示して下さい「よりどころ」なのです。

わずかな歩みではありますが、日々導かれ、深められ、育てられています。 ■

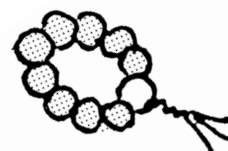


極楽寺ホームページ
<http://極楽寺.com/>

極楽寺だよりの過去の記事をはじめ、盛りだくさんの内容です。

お念珠、修理いたします。

お念珠の紐は、切れるもの。特に、不吉なことではありません。お寺まで、お持ち下さい。修理いたします。



お詫びと訂正

先月号で、新しく世話人になられた田中さんをご紹介しましたが、お名前の漢字が間違っておりました。正しくは、田中正幸さんです。（「昌幸」の表記は間違いです。）この場を借りてお詫び申し上げますと共に、訂正させていただきます。本当に、申し訳ありませんでした。

作法一口メモ

足の^{ぐあい}具合が悪い方は、
立ってお焼香しても大丈夫です。



近頃は、^{こうれいか}高齢化や^{いす}椅子の生活、^{ほそう}舗装された道路が^ふ増えたことなど、さまざまな原因から、^{ひざ}膝を痛めて正座ができないと言われる方が増えました。

でも、浄土真宗は、「男女・老少を問わず、造罪の多少を問わず、修行の^{くごん}久近を論ぜず」（男も女も、罪をの多少も、修行の長さも問わない）という教えですから、足の^{ぐあい}具合が悪い人は、^{どうどう}堂々と椅子に^{らく}座り、^{しょうこう}楽な形でお焼香されて^{けっこう}結構です。モチロン立たれてもOK。

先日、ご門徒の方が、^{じっか}実家の法事にお参りされた時のこと。日頃から私が、「立ってお焼香されてもいいですよ」と言っていたことを思い出し、^{じゅうしょく}ご住職に^{ことわ}断りを入れた上で、立ってお焼香されました。すると、「私は^{すわ}座れないから、お焼香はしない」と言っておられたお姉さんが、「立って良いのなら、私もする」と、お焼香されたそうなのです。私はこの話を聞いて、とても^{うれ}嬉しい気持ちになりました。誰かがされると、周りの方も、安心してできるのです。「ああ、私はここにいても良いんだ」という思いにもなれます。でも、最初にされる方は、^{ゆうき}勇気が^い要りますよね。そんな時には、「極楽寺の住職から、^{すす}薦められていますので。」と言って下されば結構です。

□長男が四月から親元を離れ、京都の龍谷大学に入学し、浄土真宗の学びを始めることになりました。□振り返ると、長男に対して口うるさく、過干渉な父親だったようで、申し訳ない限りです。彼もうっとうしいと思っていたことでしょう。父親失格と思いながらも、ついつい余計なことを言っは、落ち込むことの繰り返しでした。□以前ある人が、「どんなに凄い教育評論家であっても、自分の子どもは別。上手く接することができないらしい。」と教えてくれました。「立派な人でもそうなのか」とホッとする気持ちと同時に、やはり親子関係は難しいのだと改めて思いました。親子の距離は、近すぎるからでしょうか。お互いに甘えもあるのかもかもしれません。大切に思うが故に言った一言が、かえって相手を傷つけることも。これが他人だと、距離もとれ、冷静に対応できるのでしょうか、我が子となると・・・上手くはいきません。□そう考えると、子育ては親だけではできないのですね。様々な方々のお陰で、子どもの成長があるのだと、心から思っています。先生方、地域の皆さま、そしてご門徒の皆さま、彼をここまで成長させて下さり、本当に有難うございます。これからも、私共々お育て下さい。よろしくお願ひします。（住職）